

平成30年(2018年)

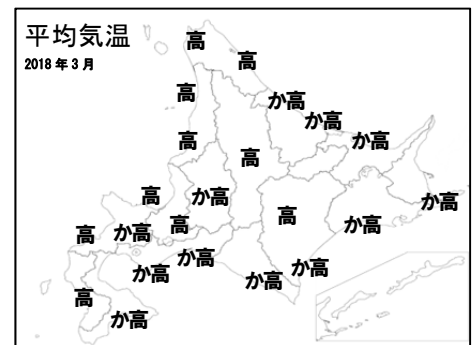
札幌管区气象台 気象防災部
地球環境・海洋課
(2018年4月2日)

北海道地方 3月の天候

気候表 (データは速報値であり、後日変更される場合があります)

官署名	本年			平年差・平年比			降雪の 深さ合計 cm	月最深 積雪 cm
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %		
稚内	0.1	95.5	143.3	+1.1	190	103	80	79)
北見枝幸	-0.3	98.0	131.4	+1.7	146	90	87	134
羽幌	0.9	121.0	140.1	+1.5	196	102	52	112)
雄武	-0.5	65.0	139.9	+1.9	162	87	70	64
留萌	1.0	68.5	142.6	+1.4	129	108	43	125
旭川	-0.1	77.5	120.0)	+1.7	144	80	60	98
網走	0.3	39.0	161.3	+2.2	90	94	32	52
小樽	1.8	91.0	141.0	+1.3	109	109	46	126
札幌	2.4	115.5	159.1	+1.8	148	109	74	89
岩見沢	1.2	106.0	158.5	+2.1	186	98	50	125
帯広	0.8	129.0	209.9	+1.8	304	96	65	106
釧路	1.1	122.5	174.1	+2.0	210	87	20	14
根室	0.7	36.0	187.6	+2.0	69	98	24	22
寿都	2.3	82.0	124.7	+1.3	139	111	13	103
室蘭	3.0	91.5	179.9	+2.1	190	99	17	30
苫小牧	2.1	114.5	181.3	+2.0	221	109	24	40
浦河	2.4	103.5	190.2	+1.9	211	98	16	9
江差	3.9	92.5	132.2	+1.4	149	105	6	40
函館	3.4	112.0	171.3	+2.0	189	109	26	74
倶知安	0.5	132.5	137.0	+1.9	142	112	59	207
紋別	0.0	43.5	152.8	+1.8	112	94	61	68
広尾	2.3	258.5	171.4	+2.8	283	92	95	127

階級分布図



注)「)」付きの値は欠測を含む。「)」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温	階級	降水量	階級	日照時間	階級	降雪量	階級
北海道22地点平均	+1.8	高	169	か多	100	並	61	か少
日本海側10地点平均	+1.6	高	153	か多	104	並	47	か少
ホーツク海側4地点平均	+1.9	か高	128	多	91	少	67	少
太平洋側8地点平均	+2.1	か高	210	か多	99	並	75	少

月統計値の記録 (第3位まで)

(詳細は、最終ページの表を参照してください。)

- 月平均気温の高い方から
 - 第1位 広尾
 - 第2位 釧路 根室 室蘭 苫小牧 浦河
- 月降水量 (多い)
 - 第1位 苫小牧
 - 第2位 広尾
 - 第3位 岩見沢 帯広
- 月最深積雪 (大きい)
 - 第2位 帯広 函館

階級は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階に分けています。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年~2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

— 『高温・多雨（少雪）・並照』 上旬は気象災害が相次ぎ、下旬は記録的高温 —

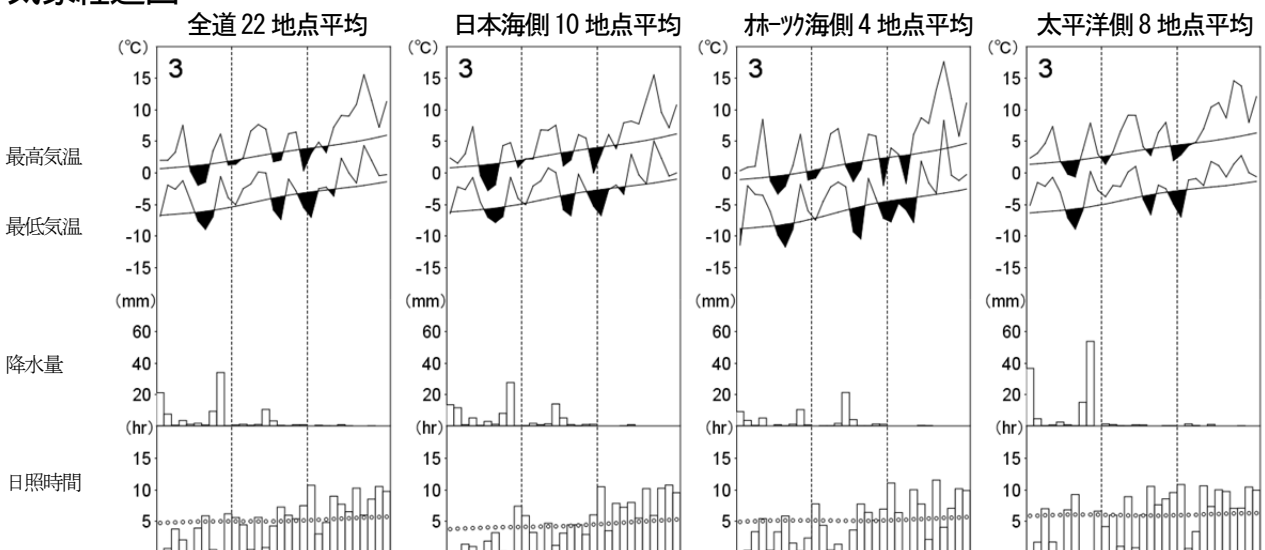
この期間の天気は、上旬は冬型の気圧配置や低気圧の影響で雪や雨の降った日が多く、大荒れの天気となった日や、この時期としては記録的な大雨となって各地で融雪洪水害が発生した日もあった。中旬は天気が短い周期で変わった。下旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多く、28日には南から暖かい空気が流れ込んだ影響で、斜里町宇登呂の日最高気温が21.0度に達し、北海道内の3月の気温としては、1923年に帯広で記録した観測史上1位の値(20.3度)を更新した。気温は上旬と中旬は平年より高く、下旬はかなり高く、月平均気温も高かった。降水量は上旬は平年よりかなり多く、下旬はかなり少なかったが、月降水量はかなり多かった。日照時間は上旬は平年よりかなり少なかったが、下旬はかなり多く、月間日照時間は平年並だった。降雪量は中旬は平年より少なく、下旬はかなり少なく、月降雪量もかなり少なかった。なお、1961年の統計開始以降、上旬は降水量が日本海側と太平洋側及び北海道地方としても最も多く、日照時間が北海道地方及び各地域で最も少なかった。また、下旬は気温がオホーツク海側と太平洋側及び北海道地方としても最も高く、降水量と降雪量は日本海側とオホーツク海側及び北海道地方としても最も少なく、日照時間は日本海側で最も多かった。

上旬:1~2日は発達した低気圧の通過やその後の強い冬型の気圧配置により広い範囲で雪や雨が降り、大雪や大荒れの天気となった。日降雪量は1日に中札内村上札内で62cm、2日に伊達市大滝で48cmなど。3日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側北部で雪や雨の降った所が多かったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた。4日は寒冷前線が通過して雨や雪の降った所が多かった。5日は気圧の谷の通過や寒気の影響により日本海側や太平洋側で雪の降った所が多かった。6日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側では概ね晴れた。7日ははじめ冬型の気圧配置となって日本海側で雪の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。8日は気圧の谷の影響により広い範囲で雪や雨が降った。日降水量は登別市カルルスで70.0mmなど。9日は前線を伴った低気圧が通過して全道的に雨や雪が降り、この時期としては記録的な大雨となって各地で融雪洪水による被害が発生した。日降水量は釧路市阿寒町中徹別で146.0mmなど。10日ははじめ気圧の谷の影響で雪の降った所があったが、次第に高気圧が張り出して広い範囲で晴れた。

中旬:11日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、低気圧が接近して雪の降った所があった。12日は低気圧を含む気圧の谷が通過して日本海側や太平洋側西部で雪の降った所が多かったが、次第に高気圧が張り出して晴れた所もあった。13日は気圧の谷の中となって雪や雨の降った所があった。14日は寒冷前線が通過して日本海側北部で雨や雪が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所も多かった。15日は前線を伴った低気圧が通過して広い範囲で雪や雨が降った。16日は気圧の谷の通過やその後の冬型の気圧配置により広い範囲で雪や雨が降った。17~18日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。19日は前線を伴った低気圧の影響で日本海側を中心に雪や雨が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側では晴れた。20日は冬型の気圧配置となって雪の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かった。

下旬:21日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。22日は高気圧の張り出しの中となって日本海側北部やオホーツク海側で晴れたが、気圧の谷の影響により太平洋側で雪や雨の降った所があった。23日ははじめ気圧の谷の影響で雪の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側を中心に晴れた。24日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、気圧の谷が接近して日本海側で雨や雪の降った所があった。25日は気圧の谷が通過して日本海側や太平洋側西部で雨や雪が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた。26日ははじめ気圧の谷の影響で雪や雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かった。27日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。28~29日は気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れた。30~31日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。

気象経過図

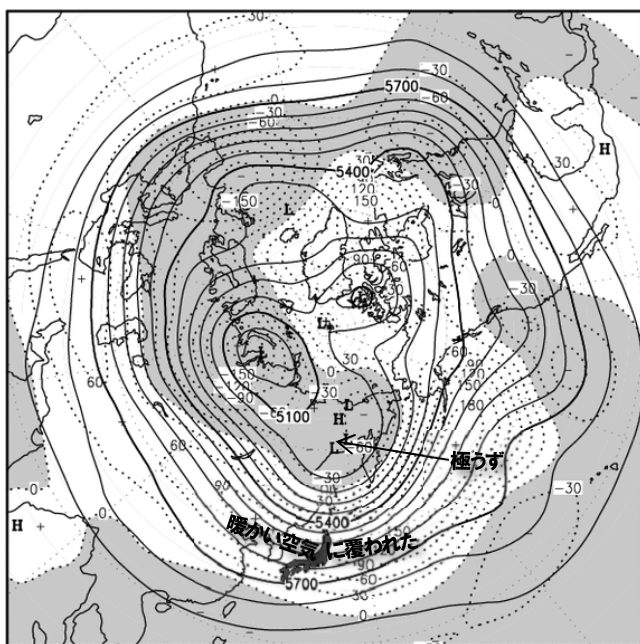


旬別気候表

(気温は平年差(℃)、降水量と日照時間は平年比(%))を示す

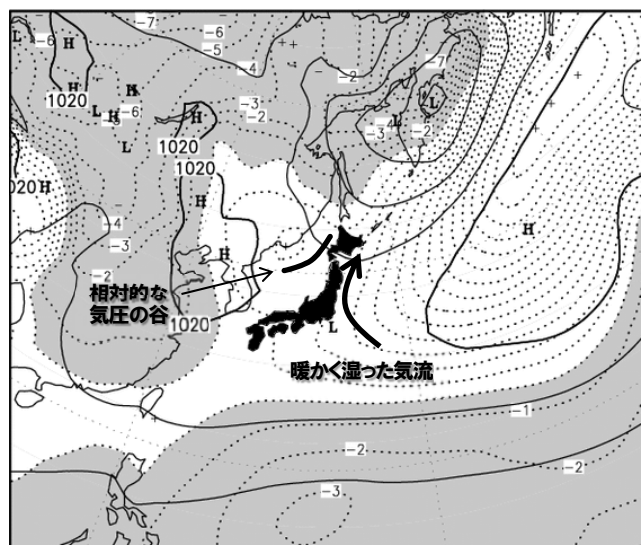
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	+1.6 高	+0.9 高	+2.9 か高	+1.1 高	+0.7 高	+2.7 か高	+1.8 高	+0.7 並	+3.2 か高	+2.0 高	+1.3 高	+2.9 か高
降水	462 か多	95 並	6 か少	318 か多	121 多	4 か少	225 か多	172 多	3 か少	760 か多	24 少	10 か少
日照	44 か少	96 並	148 か多	36 か少	88 並	171 か多	43 か少	89 並	135 か多	53 か少	110 多	130 か多

3月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



3月の500hPa天気図

実線：等高線（m）、点線：高度の年平均偏差（m）
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。
 日本の上空では、風は等高線に沿って西から東に吹いている。等高線が南北に波打っている状態は偏西風が進行していることを、等高線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



3月の地上天気図

実線：等圧線（hPa）、点線：気圧の年平均偏差（hPa）
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

・500hPa（上空約5500m）天気図

東シベリアに極うずが停滞したが、中国東北区から日本のはるか東にかけて正偏差となって暖かい空気に覆われ、北海道付近は寒気の影響を受けにくかった。

・地上天気図

北海道付近は中国東北区の高気圧と千島の東の高気圧の張り出しの間で相対的な気圧の谷となり、低気圧が通過することが多かった。また、日本の東で高気圧が強くと、南から暖かく湿った空気が流入しやすかった。

北海道上空の気温経過

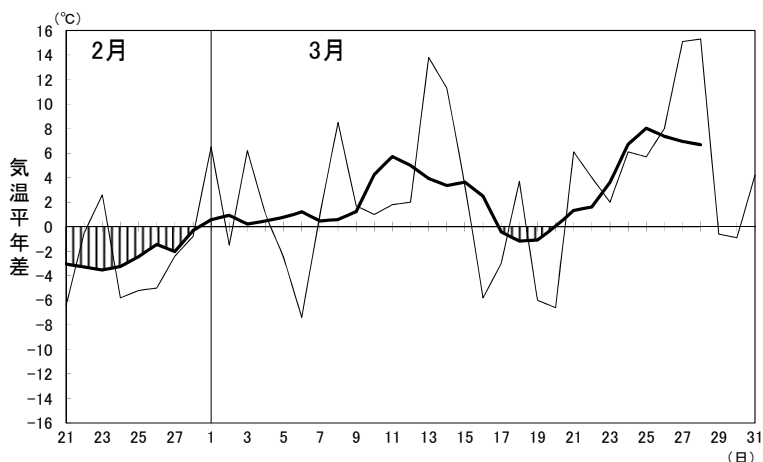
3月の札幌における850hPaの気温年差

・7日移動平均（太線）

概ね平年を上回り、中旬以降は大きく上回る時期もあった。

・日別値（細線）

平年を大きく上回る日と大きく下回る日が現れ、気温の変動が大きかった。下旬には記録的な高温となる日もあった。



2月下旬から3月の札幌における850hPa(上空約1500m)気温年差
 (細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差)

月統計値の記録の詳細（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
3月	月平均気温の高い方から	第1位	広尾	2.3 °C	+2.8 °C	2.1 (2015)	1958
		第2位	釧路	1.1 °C	+2.0 °C	1.7 (2015)	1910
			根室	0.7 °C	+2.0 °C	1.2 (2015)	1880
			室蘭	3.0 °C	+2.1 °C	3.4 (2015)	1923
			苫小牧	2.1 °C	+2.0 °C	2.4 (2015)	1943
			浦河	2.4 °C	+1.9 °C	2.6 (2015)	1927
	月降水量 (多い)	第1位	苫小牧	114.5 mm	221 %	108.5 (2015)	1943
		第2位	広尾	258.5 mm	283 %	389.0 (1975)	1958
		第3位	岩見沢	106.0 mm	186 %	150.0 (2000)	1947
			帯広	129.0 mm	304 %	279.0 (1975)	1892
	月最深積雪 (大きい)	第2位	帯広	106 cm	230 %	177 (1970)	1892
			函館	74 cm	255 %	82 (1957)	1873

お問い合わせ先

札幌管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課
TEL (011) 611-6174